

矢作川流域圏懇談会

第15期 全体会議

2025年11月18日 (火)

全体会議の次第

1. 開会

2. 全体会議座長 あいさつ

3. 矢作川流域圏懇談会とは（設立要旨・規約・情報公開）

4. 各部会の第15期の活動目標と実績

- (1) 市民部会 ・ 地域部会
- (2) 各座長からの補足
- (3) 意見交換

5. 第16期の全体会議の活動目標

- (1) 市民部会 ・ 地域部会
- (2) 各座長からの補足
- (3) 意見交換

6. その他

7. 全体会議座長 講評

8. 閉会

会議に参加される皆さまへお願い

下記の事項に留意してご参加ください

①本会議は対面・WEBハイブリッド会議です

- 会議の開始・終了時刻を守りましょう。
- 意見交換のタイミング以外は、事務局、各座長のみの発言に限ります。

②意見交換時

- 対面参加の方は、挙手をお願いします。
- WEB会議システムには、「挙手（手を上げる）」機能が搭載されています。意見のある方は、挙手ボタンを押してください。事務局もしくは座長が指名するまで、発言は控えるようお願いします。
- 多くの参加者が発言できるよう、発言時間は長くないようにしましょう。
- お互いの意見をよく聞き、それぞれの発言を尊重しましょう。
- 「チャット」機能を活用し建設的な議論を行いましょう。
- 発言時は最初に氏名を名乗ってください。
- 私語や談論は慎んでください。

※マナーを守って参加してください。

遵守出来ない場合は退出していただくことがあります。

3. 矢作川流域圏懇談会とは

別紙1 「矢作川流域圏懇談会」について をご参照ください

①懇談会設立の背景

- ・矢作川水系河川整備計画（治水・利水・環境・土砂管理・維持管理・・・）の中に、民・学・官の連携・協働による取り組みが明記された。
- ・懇談会を設立することで、流域内の各組織のネットワーク化、河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る。

②設立要旨・規約

- ・平成22年8月28日制定、平成30年4月1日改定、令和7年改訂（予定）

③矢作川流域圏懇談会の情報公開

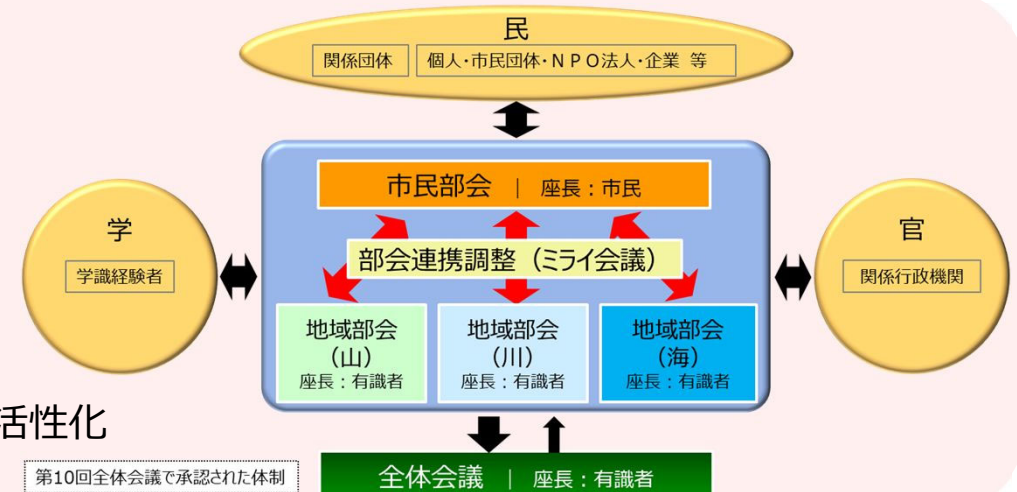
- ・原則として「公開」（個人のプライバシーに関する議事は「非公開」）

矢作川流域圏のあり方を検討する視点

“流域は一つ、運命共同体”

132組織 426名が登録 (R7.11時点)

- ①流域圏住民・関係者の連携強化
- ②流域圏住民の啓発活動
- ③行政と住民が連携した調査・研究の充実
- ④河川を中心とした流域の社会基盤形成及び地域の活性化



3. 矢作川流域圏懇談会とは

【懇談会の目的・運営方針】

懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

懇談会の運営方針

(1) 市民部会の活動の活発化

- 組織のあり方を見直し、市民部会主体の勉強会やイベントの計画を行う。

(2) 流域の課題解決に向けて具体的な行動を積極的に行う

- 課題解決に向けた山・川・海部会の積極的な議論と交流を実施する。
- 勉強会やイベント等を通し、山・川・海部会の関係者が協働する。

(3) 河川整備計画のフォローアップ

- 「河川整備に関わる情報共有・意見交換」の取り組みを全体会議で共有し、意見交換を行う。

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) 活動目標

【第15期の活動目標】

市民部会と地域部会（山・川・海）の取り組み

部会	第15期の活動目標
市民	<ul style="list-style-type: none">① 食と農業② 地域部会との連携③ 流域内外で新たなつながりを広げる
山	<ul style="list-style-type: none">① 次の10年を見据えながら、山部会の展開を模索するとともに、4つの活動テーマを軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。 (別紙2：矢作の恵みで生きる 参照)
川	<ul style="list-style-type: none">① 流域治水を軸に山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する。
海	<ul style="list-style-type: none">① 「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -1 市民部会

【第15期の活動目標】

〈テーマ〉

〈活動目標〉

⇒：今期の実績

食と農業

- 食と農業に関する情報共有や活動を目的としたチームを作成し、その内容をWGで情報共有・意見交換する。⇒「矢作の恵みプロジェクト」の発足
- 公開講座として流域市民の方々への発信を検討する。
⇒第20回市民部会WGで公開講座の内容、テーマ等を議論

地域部会と連携

- 地域部会と連携して流域の課題を流域市民の方々にご提供いただく機会を設ける。
- 矢作川流域圏懇談会の活動や矢作川流域の課題を流域市民の方に発信していくために地域部会と連携して「農業」、「海の現状・課題」をテーマとしたイベントを開催する。
⇒市民部会・海部会合同WGで、「海の現状・課題」をテーマとしたイベントの意見交換を行い、海部会と協同で三河湾大感謝祭に参加

新たなつながり

- 矢作川流域圏懇談会のネットワークを活用して流域内外で新たなつながりを広げる。⇒「川の日」ワークショップ関東大会、中部いい川WSに参加
- 流域圏懇談会の活動と関連する団体・個人への訪問・招待やイベント参加などを引き続き行っていく。（矢作川感謝祭・三河湾大感謝祭等）
⇒例年のイベントに加え、新たなイベントに参加
- 流域内の外部団体と連携を強化していき、流域のことをご提供いただく場を設けて大学や市民の方々も巻き込んでいく。
⇒「無門福祉会」とのつながり強化

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -1 市民部会

「食と農業」に関する公開講座について意見交換 (テーマ①)

○次回の公開講座について

第20回市民部会WGにて、農業の現状と課題、環境問題との関連、食の安全性、地域活性化などを含めて、市民が「自分ごと」としてとらえるきっかけとなるテーマについて意見交換を行いました。



第20回市民部会WGの様子

●これまでの実施状況と次回の構想

	時期	テーマ	実施状況
これまで	令和3年7月	マイクロプラスチック	市民部会の企画で公開講座を開催 「プラスチックが生き物を苦しめている」
	令和3年11月	ネオニコチノイド系農薬	市民部会の企画で公開講座を開催 「アカトンボが危ない！」
	令和4年8月	「三河湾の水産資源」、「栄養循環・物質循環」	市民部会の提案→海部会企画で公開講座を開催 「豊かな海の栄養源～きれいな海は豊かな海か？～」
	令和6年2月	流域のつながり	市民部会の企画で公開講座を開催 「川がつなぐ 私たちの未来 ～知らなかった山・川・里・海の繋がり～」
	令和6年12月	流域総合水管理	ミライ会議の企画で公開講座を開催 「流域の視点から見た治水・環境と総合水管理 ～市民とともに創る豊かで持続可能な社会～」
次回	調整中	食と農業 (仮)	検討中

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -1 市民部会

「新たなつながり」を広げる (テーマ③)

○今期参加したイベント

矢作川流域圏懇談会として今期は下記のイベントに参加した。例年から参加している矢作川感謝祭、中部のいい川ワークショップ、三河湾大感謝祭、いい川・いい川づくりワークショップに加えて、今期は「川の日」ワークショップ関東大会、循環フェス名古屋、いなかとまちの文化祭に参加し、**流域内外で新たなつながり**を広げた。

イベント	日時	場所
第3回中部のいい川ワークショップ	令和7年2月1日(土)	三重県四日市市楠福社会館
第17回「川の日」ワークショップ 関東大会 in 前橋	令和7年2月22日(土)	共愛学園前橋国際大学
循環フェス名古屋	令和7年4月19日(土)	エディオン久屋広場
第13回いなかとまちの文化祭	令和7年4月26日(土)	豊田市博物館 芝生公園
2025矢作川感謝祭	令和7年9月7日(日)	豊田大橋下 千石公園
第12回三河湾大感謝祭	令和7年10月5日(日)	吉良ワイキキビーチ(宮崎海水浴場)
第17回いい川・いい川づくりワークショップ	令和7年10月25日(土)、 26日(日)	KIITO(キイト:デザインクリエイティブセンター神戸)

4. 各部会の第15期の活動目標と実績

(1) -1 市民部会

「新たなつながり」を広げる (テーマ③)

○ 第3回中部のいい川ワークショップ

三重県四日市市楠福社会館で開催された第3回中部のいい川ワークショップに参加した。各団体からの活動内容の発表・質疑応答やトークセッションを通じて流域のつながりを再認識することができた。

○ 第17回「川の日」ワークショップ関東大会 in 前橋

群馬県の前橋市小屋原町で開催された第17回「川の日」ワークショップに参加した。エクスカーションや各団体からの活動内容の発表・公開討論会等に参加し、流域外で新たなつながりを広げることができた。



「川の日」ワークショップ関東大会で使用したポスター



発表の様子 (中部のいい川ワークショップ)



クロストークの様子 (中部のいい川ワークショップ)



発表の様子 (「川の日」ワークショップ関東大会)

4. 各部会の第15期の活動目標と実績

(1) -1 市民部会

「新たなつながり」を広げる (テーマ③)

○循環フェス名古屋、第13回いなかとまちの文化祭

下記の取組を通じて矢作川流域圏懇談会の活動や矢作川流域の問題・恵みについて紹介した。また、懇談会の枠を超えた「矢作の恵みプロジェクト」と連携して「食」をきっかけに流域の重要性や課題を知っていただいた。

矢作川流域圏懇談会

懇談会の活動紹介

下記冊子の配布

- ・矢作川流域圏懇談会10年誌
- ・流域圏担い手づくり事例集Ⅴ
- ・森のひとをつなぐ

矢作の恵みプロジェクト…

矢作川流域圏懇談会 市民部会座長の鈴木建一氏を中心に2025年4月から発足したチームであり、流域の問題・恵みを、「食」を通じて知っていただくために活動している。

矢作の恵みプロジェクト

提供・使用した食材等		産地
おにぎり	ミネアサヒ	豊田市産
	水田貯留米	安城市産
	海苔	三河湾産
	饗庭塩	西尾市産
しし汁		豊田市産
アイスクリーム		平谷村産



当日に使用した「塩おにぎり」、「しし汁」POP



循環フェスのブースの様子



第13回いなかとまちの文化祭の様子

4. 各部会の第15期の活動目標と実績

(1) -1 市民部会

新たなつながりを広げる (テーマ②、③)

○2025矢作川感謝祭、第12回三河湾大感謝祭

下記の取組を通じて矢作川流域圏懇談会の活動や矢作川流域の問題・恵みについて紹介した。また、懇談会の枠を超えた「矢作の恵みプロジェクト」と連携して「食」をきっかけに流域の重要性や課題を知っていただいた。三河湾大感謝祭では、海部会と協同で参加し、「海の現状・課題」に関する動画の上映やステージで懇談会の紹介した。



2025矢作川感謝祭の様子



第12回三河湾大感謝祭の様子



ステージでの活動紹介 (三河湾大感謝祭) 11

矢作川流域圏懇談会

- 懇談会の活動紹介
- 下記冊子の配布
 - ・矢作川流域圏懇談会10年誌
 - ・流域圏担い手づくり事例集Ⅴ
 - ・流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-Ⅰ
 - ・森のひとをつなぐ
- みんなの矢作川流域ものがたり
(流域マップにポストイット)
- 海の現状・課題に関する動画公開
(海部会の活動)
(三河湾大感謝祭のみ)

矢作の恵みプロジェクト

	提供・使用した食材等	産地
おにぎり	ミネアサヒ	豊田市産
	にこまる	豊田市産
	水田貯留米	安城市産
	海苔	三河湾産
	饗庭塩	西尾市産
	クラフトビール	豊田市、安城市産
	アイスクリーム	平谷村産
	鹿ソーセージ (矢作川感謝祭のみ)	豊田市産



流域マップにポストイットしている様子

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -1 市民部会

【今期の活動①】

第15期の市民部会の活動を下記以降に示す。

	活動	日時	場所・内容
第15期	第3回中部のいい川ワークショップ	令和7年2月1日（土）	場所：三重県四日市市楠福社会館 内容：矢作川流域圏懇談会の活動紹介
	市民部会・海部会合同WG	令和7年2月13日（木）	場所：西尾市中央ふれあいセンター3F視聴覚室 内容：豊かな海の回復に向けた取組について 市民部会・海部会の合同イベントについて
	第17回「川の日」ワークショップ関東大会in前橋	令和7年2月22日（土）	場所：共愛学園前橋国際大学 内容：矢作川流域圏懇談会の活動紹介
	循環フェス名古屋	令和7年4月19日（土）	場所：エディオン久屋広場 内容：矢作川流域圏懇談会の活動紹介 「矢作の恵みプロジェクト」
	第13回いなかとまちの文化祭	令和7年4月26日（土）	場所：豊田市博物館 芝生公園 内容：矢作川流域圏懇談会の活動紹介 「矢作の恵みプロジェクト」
	第20回市民部会WG	令和7年7月31日（土）	場所：豊田市崇化館交流館 内容：流域連携イベントに関する意見交換 公開講座に関する意見交換

■：イベントへの参加

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -1 市民部会

【今期の活動②】

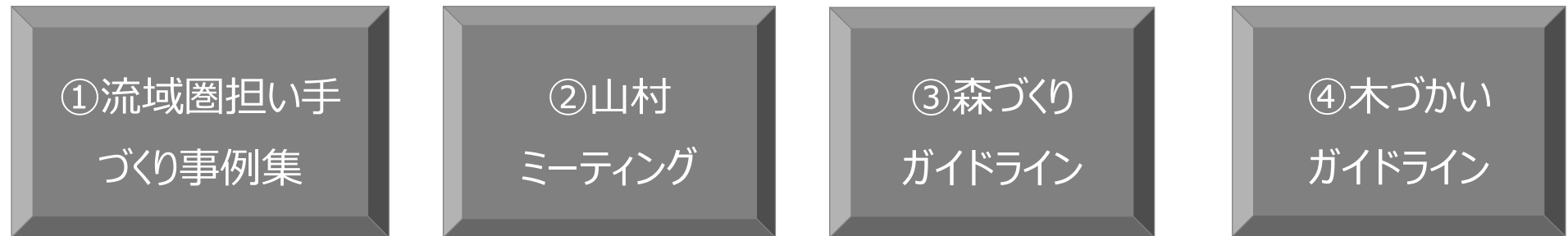
	活動	日時	場所・内容
第15期	2025矢作川感謝祭	令和7年9月7日（日）	場所：豊田大橋下 千石公園 内容：矢作川流域圏懇談会の活動紹介 「矢作の恵みプロジェクト」
	第12回三河湾大感謝祭	令和7年10月5日（日）	場所：吉良ワイキキビーチ（宮崎海水浴場） 内容：矢作川流域圏懇談会の活動紹介 「矢作の恵みプロジェクト」
	第17回いい川・いい川づくりワークショップ	令和7年10月25日（土）、 26日（日）	場所：KIITO（キイト：デザインクリエイティブセンター神戸） 内容：矢作川流域圏懇談会の活動紹介

■ : イベントへの参加

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

【第15期の活動目標】

次の10年を見据えながら、山部会の展開を模索するとともに、4つの活動テーマを軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。



<テーマ>

<活動目標>

①流域圏担い手 づくり事例集	<ul style="list-style-type: none">○ 持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集VI」を刊行する。○ 山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目した取材や、これまで流域圏に含まれながら取り上げてこなかった団体への取材の可能性を検討する。○ 川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。○ 事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。○ 事例集交流会を開催する。
②山村ミーティング	<ul style="list-style-type: none">○ 山村ミーティングの実現のためには、林業技術者に直接意見を伺うなど、林業関係者との連携を強化する（担い手の創出）。⇒今後の方針をWGにて議論○ 矢作川感謝祭始め多様な活動と連携して、流域の林業関係者の交流の場づくりにつなげていく。⇒今後の方針をWGにて議論

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

【第15期の活動目標】

<テーマ>

③ 森づくり ガイドライン

<活動目標>

⇒：今期の実績

- 森林経営管理法、森林環境譲与税、脱炭素社会の実現、ネイチャーポジティブ、人工林齢級分布平準化、スギ花粉症対策などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
⇒豊田市森づくり委員会の内容を情報共有
- 水環境基本法および水循環基本計画に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。⇒「流域総合水管理」に関する情報共有
- 流域市村の間伐面積・皆伐面積の経年変化を整理し、要因等の情報共有を行っていく。⇒R6年度の間伐・皆伐面積を整理し情報共有

④ 木づかい ガイドライン

- 新たな取り組みとして「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（都市の木造化推進法）」に基づいて矢作川流域の各自治体で設定された「建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」を比較する。
⇒各自治体がどこの材促進しているか比較した
- 特に、どこの木材の利用を推進しているかに着目する。（市産材、県産材、国産材等）
⇒各自治体がどこの木材を推進しているか比較表にて整理
- 「流域産材」を各自治体に広めていくためにアピールする資料を作成する。⇒WGにて議論
- 各自治体の木材利用の担当者を整理し、関係を構築する。⇒WGにて議論
- 各自治体の担当者に「流域産材」をアピールする場として木づかいミーティングの企画を検討する。⇒検討中
- 木づかいミーティングを開催し、作成した資料を用いて「流域産材」の活用を促進する。
⇒検討中

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

【第15期の活動目標】

<テーマ>

①流域圏担い手
づくり事例集

<活動目標>

⇒：今期の実績

- 持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「**流域圏担い手づくり事例集VI**」を刊行する。⇒流域圏担い手づくり事例集VI- I を刊行
- 山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目した取材や、これまで流域圏に含まれながら取り上げてこなかった団体への取材の可能性を検討する。
⇒取材対象は流域圏全体としている
- 川部会、海部会を巻き込んだ**流域全体の担い手を発掘**する活動とする。
⇒流域全体を対象として事例集を刊行
- 事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。
⇒第16期に事例集VI- II を刊行予定
- **事例集交流会を開催**する。
⇒第16期に事例集VI- I とVI- II を含めて同時開催

流域圏担い手づくり事例集 (テーマ①)

○公開講座の開催と流域圏担い手づくり事例集VI-Iの刊行

2024年12月17日に開催した公開講座では、「流域総合水管理」の考え方を分かりやすく紹介しつつ、流域総合水管理に精通する蔵治氏、萱場氏とネイチャーポジティブに精通する森氏に鼎談していただいた。将来、地域の安全や安心を地域住民が主体的に実施するために、会場を含めて意見交換した。

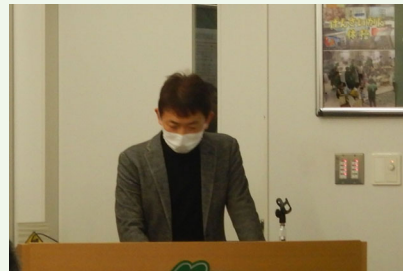
公開講座の内容を文字起こしする形で、「流域圏担い手づくり事例集VI-I」を刊行した。既に1,000部発行しており、多くの方に手に取っていただき、事例集を広めることができた。

来期には「流域圏担い手づくり事例集VI-II」の刊行を予定しており、持続可能な流域づくりに関わる人々の活動を中心に取材を予定している。

次頁に公開講座で登壇し、話題提供していただいた方の内容を示す。



蔵治氏 (東京大学教授)



萱場氏 (名古屋工業大学教授)



森氏
(土木研究所自然共生研究センター長)



鼎談の様子

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

流域圏担い手づくり事例集 (テーマ①)

蔵治光一郎氏 (東京大学教授)

地域共創流域治水プロジェクトにおいて森林の専門家として参画し、**木材生産と治水の両立**を目指す研究を行っている。市町村単位の森づくり構想や濁水カルテの作成、架線系集材機械の普及、森林認証制度の推進などを行っている。

萱場祐一氏 (名古屋工業大学教授)

球磨川流域では、地域住民の安全と環境を守るため、**雨庭や多自然川づくりなど自然を活かした治水対策**が進められている。多自然川づくりでは洪水の勢いを緩和し、下流への負荷を軽減させ、洪水波形を緩和する効果があり、ワンドやリーキーダムを導入で流量低減を図る。

森照貴氏 (土木研究所自然共生研究センター長)

ネイチャーポジティブは国際的な環境目標として定着し、日本でも国家戦略に組み込まれている。淡水魚の絶滅危惧種増加等を背景に、従来の環境に配慮する「多自然川づくり」から、**保全と創出を目的とした「回復型川づくり」**への転換が必要だと提言している。

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

【第15期の活動目標】

<テーマ>

③森づくり
ガイドライン

<活動目標>

⇒：今期の実績

- 森林経営管理法、森林環境譲与税、脱炭素社会の実現、ネイチャーポジティブ、人工林齢級分布平準化、スギ花粉症対策などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
⇒豊田市森づくり委員会の内容を情報共有
- 水環境基本法および水循環基本計画に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。⇒「流域総合水管理」に関する情報共有
- 流域市村の間伐面積・皆伐面積の経年変化を整理し、要因等の情報共有を行っていく。⇒R6年度の間伐・皆伐面積を整理し情報共有

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

森づくりガイドライン (テーマ③)

○流域総合水管理に関する情報共有

国土審議会・社会資本整備審議会が答申した「流域総合水管理のあり方について」の中で紹介されている流域総合水管理の定義や相乗効果・利益相反の調整の事例について情報を共有した。

また、「流域総合水管理」の具体的な取組内容として、矢作川流域圏懇談会の活動が取り上げられていることを紹介した。

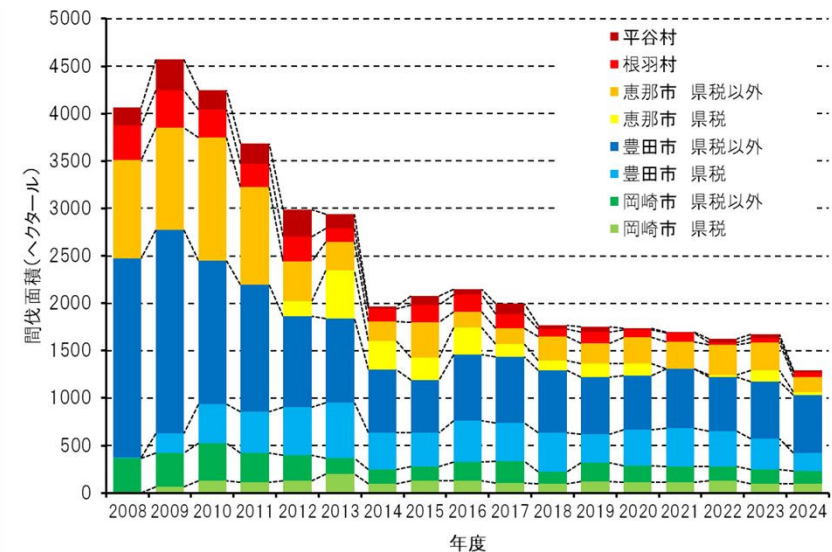
○令和7年度 第1回とよた森づくり委員会の情報共有

豊田市は、皆伐再造林に対して民間主導での実施を推奨している。蔵治氏からの意見として、シカの食害の対策にコストがかかるため、再造林が難しいことや、一方で、間伐されず巨木化することによる風倒被害の懸念が挙がった。他にも豊田市森づくり条例の改正等の話題提供があった。

○矢作川流域圏での人工林間伐の状況

2009年から2014年の間に大きく減少しており、それ以降は2000ha前後で横ばい傾向である。

近年の間伐面積は、ほぼ横ばいであったが、今年(2024年)は恵那市と豊田市が減少し、流域全体で1500haを下回る結果となった。



4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

【第15期の活動目標】

<テーマ>

④木づかい
ガイドライン

<活動目標>

⇒：今期の実績

- 新たな取り組みとして「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（都市の木造化推進法）」に基づいて矢作川流域の各自治体で設定された「建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」を比較する。
⇒各自治体がどこの材促進しているか比較した
- 特に、**どこの木材の利用を推進しているか**に着目する。（市産材、県産材、国産材等）
⇒各自治体がどこの木材を推進しているか比較表にて整理
- 「流域産材」を各自治体に広めていくために**アピールする資料を作成**する。⇒WGにて議論
- **各自治体の木材利用の担当者を整理**し、関係を構築する。⇒WGにて議論
- 各自治体の担当者に「流域産材」をアピールする場として木づかいミーティングの企画を検討する。⇒検討中
- 木づかいミーティングを開催し、作成した資料を用いて「流域産材」の活用を促進する。
⇒検討中

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

木づかいガイドライン (テーマ④)

○各自治体の流域産材の利用状況

流域産材を広めるために、矢作川流域圏内の自治体の現状の木材利用の方針を比較し、どこの木材を推進しているか比較した。安城市では、長野県下伊那郡根羽村産材や、自治体間交流を行っている地域産材と記載があった。その他の山が無い自治体では、主に県産材が活用されている記載があった。また、森林のない自治体に対して流域産材の活用を広める手法について議論した。

市町村名	市町村産材	県産材	地域材	流域材	国産材	水源材	輸入木材	その他	重要な記載
みよし市			◎		○	◎			・国産材 ・特に地域材（県内又は市の水源地域で伐採された木材）
安城市		◎	◎					◎	・長野県下伊那郡根羽村産材 ・その他自治体間交流を行っている地域産材および県産材
岡崎市	◎	○1			○2		○3		・市産材 ・市産材の入手が困難な場合は、県産材・国産材・輸入木材の順位で使う
刈谷市		◎							・県産木材（詳しい記載はなし）
恵那市		◎							・岐阜県産木材
新城市		◎	○1		○2				・原則県産材を使用、木材の産地による特徴や性質の違いを考慮した地域材、県産材の使用が困難な場合における国産材 ・1. 県産材2. 地域材3. 国産材
瑞浪市		◎							・岐阜県産木材
西尾市		◎	◎		◎				・県産木材、地域材（近隣県で生産された木材）、国産材
設楽町	◎	◎	◎		○				・地域材（設楽町産材）県産木材 ・入手が困難な場合、国産材
知立市		◎	◎		○	◎			・積極的に国産材を利用 ・特に地域材（県内または市の水源地域で伐採された木材）を優先
半田市		◎	○		○	◎			・原則、国産材を利用 ・地域材（県内または市の水源地域で伐採された木材）を優先するが、特に県産木材を優先
武豊町		◎	◎		○	◎			・原則、国産材を利用 ・特に地域材（県内または市の水源地域で伐採された木材）を優先
碧南市		◎							・県産木材（詳しい記載はなし）
豊田市	◎	○2		○1	○3				・原則、豊田市産材 ・流域産材、県産材、国産材の順位で利用
高浜市									・記載なし
幸田町		◎			○				・原則、国産材 ・特に県産材が利用できる場合は優先
根羽村	◎								・原則、村産材
平谷村		◎							・県産材の使用に努める

※○1>○2>○3の順に優先順位が高い

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

フィールドワーク（2025年2月 岡崎市東河原町 天使の森プロジェクト）

最大寒波の大雪の中、岡崎の最も東端に位置するトウナイドコで実施している「天使の森プロジェクト」を視察しました。プロジェクトの概要や取り組み内容について説明していただきました。

○ 天使の森プロジェクトの概要

「天使の森」とは誰もが天使になれる、という願いが込められており、岡崎の最東端に位置し、山頂から三河湾を望むことができる場所にあります。

森から海は繋がっている、このことが想起できる貴重な場所であり、森林の再生、里山の暮らし、地域循環型社会を考え、幅広いジャンルや世代のメンバーがお互いの知恵と知識を共有し、共に課題解決に取り組んで行く場を創り、モデル事業を推進しています。

今回は、その拠点となるトウナイドコにおいて、建設中の施設（休憩所、種倉庫）や楮による紐づくりの現場を視察しました。



天使の森プロジェクトの拠点



建設中の種倉庫



楮による紐づくりの現場

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

フィールドワーク（2025年6月 豊田市旭八幡町・押井町 つくらッセル、押井普賢院）

廃校となった小学校の校舎を活用した「つくらッセル」の場の在り方と成り立ちについて説明していただきました。
また、「押井町普賢院」では暮らしの場としての山村を次世代につなぐ「自給家族 & Open Common」の取り組みについて説明していただきました。

○ つくらッセルの視察

つくらッセルは、廃校となった築羽小学校の校舎を活用し、**多くの人がつながり、つどい、はたらき、つくる場所**となっています。地域住民のチーム崩壊といった困難を経験しながらも、人々の関わりを大切に、多くの事業を創造してきました。

今回は、戸田氏のつくらッセルについて説明していただいた後、施設内の様子を視察しました。



施設内の視察



つくらッセルの説明

○ 押井町普賢院の視察

押井町普賢院にて、消費者と生産者が3～10年のお米の**長期栽培契約を結び、共に豊かになることを目指す「自給家族」**という取り組みを説明していただきました。2020年産から始まった自給家族は、2025年産では、330家族まで広がっております。また、過疎化などにより、管理が行き届かない森林や農地を、集落住民とそこに価値を見出す人々がつながり、全員で決めたルールの下で適切に管理しながら活用する「Open Common」という取り組みも説明していただきました。

今回は、鈴木氏に押井の里の取り組みを説明していただいた後、押井町普賢院周辺の森林施業の様子を視察しました。



押井の里の説明

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

フィールドワーク（2025年8月 平谷村高嶺 皆伐事業の視察）

平谷村高嶺のカラマツ皆伐事業の現場を視察しました。平谷村における皆伐事業の実情や、当該現場の事業内容、グラップル付集材機械について説明していただきました。

○ 平谷村高嶺の皆伐事業の視察

今回のフィールドワークでは、林齢60年のカラマツ皆伐事業の現場を視察しました。現場では既に作業道が整備され、集材の準備が進められていました。

当該現場の集材方法は、システムラジコンを使用し、荷掛け、搬送、荷卸しを安全な場所から無線操作を可能にしたグラップル付集材機械が用いられています。従来の集材方法は、作業員を集材機の周囲に配置する必要があることから、危険であり、実際に事故が発生することもありました。そのため、**作業効率と作業安全性が高い集材方法として、グラップル付集材機械**を用いています。

林業従事者の減少などが原因で、集材機を操作する技術力が衰退する事態になりました。そこで、平谷村の協力のもと、**当該現場で技術力の向上を目指し、グラップル付集材機械を活用した皆伐事業を実施**することとなりました。

今回、佐々木氏に現場状況や、集材方法の詳細を説明していただきながら、技術力の伝承に関わる貴重な現場を視察しました。



事業内容の説明



集材システムで使用する機械



伐採後の樹木の様子

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

フィールドワーク (2025年10月 恵那市 リコーえなの森)

恵那市にあるリコーえなの森を視察しました。

リコーエレメックス恵那事業所に隣接する広大な森を散策させていただき、リコーえなの森が取り組んでいる森づくり活動や、学びの場としての活用方法等を説明していただきました。

○ 恵那市リコーえなの森の視察

リコーえなの森では、遊歩道の補修、川を横断する橋の作成、コンクリートを使用しない砂防工事に加え、子供の遊び場としての虫の棲み家、生物調査といった生物保全活動など、幅広い活動が行われています。

また、学びの場としても活用されており、地元小学校の課外授業では、どんぐりや落ち葉など自然の素材を使った遊びの体験ができます。さらに、農業高校と共同に、害鳥獣と共生しながら農林業の被害を避ける研究も行っています。

リコーえなの森は「自然共生サイト」の認定されており、先進的な活動が高く評価されています。「自然共生サイト」とは、環境省が認定する生物多様性保全に配慮された森林や海岸のことです。

今回のフィールドワークでは、曽我氏に説明をしていただきながら、遊歩道を歩き、森づくり活動の一貫として創られた空間や施設を視察しました。



リコーえなの森



子どもの遊び場



活動内容の説明

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -2 山部会

【今期の活動】

第15期の山部会の活動を下記に示す。

	活動	日時	内容・場所
第15期	第71回WG・FW	令和7年 2月7日(金) ～8日(土)	WG 内容：テーマ別の活動報告、「天使の森」プロジェクトについて 場所：岡崎市 こもれびかん FW ・天使の森プロジェクト（トウナイドコ）
	第72回WG・FW	令和7年 6月27日(金) ～28日(土)	WG 内容：テーマ別の活動報告、カーボンニュートラルについて 場所：豊田市旭交流館 FW ・つくラッセル、押井町普賢院
	第73回WG・FW	令和7年 8月1日(金) ～2日(土)	WG 内容：テーマ別の活動報告、平谷村の概要、 平谷村の森林環境譲与税について 場所：平谷村役場 FW ・平谷村高嶺の皆伐事業の視察
	第17回山部会 まとめの会・FW	令和7年 10月3日(金) ～4日(土)	まとめの会 内容：テーマ別の活動報告、今期の振り返りと来期の目標 場所：恵那市 恵那文化センター FW ・リコーえなの森

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -3 川部会

【第15期の活動目標（川部会）】

山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する。

<テーマ>

<活動目標>

⇒：今期の実績

河道に関する課題
(本川・支川)

- 上流から海までを繋ぐ役割として、上下流共通の課題である土砂問題や生き物の棲みやすい川づくりについて、情報共有および意見交換を行う。

流域圏に
関する課題

- 川まちづくりに関与する行政や関係機関から矢作川流域内で取り組んでいるプロジェクトについて、情報共有していただく。
⇒第66回川部会で、水田貯留事業について、意見交換を行った。
- 流域圏の課題を防災面・社会面から整理し、行政や市民団体などが参画できる場を創出する。
- 矢作川流域圏の特色（現状の課題や資源・資産）を整理する。

交流・共有に
関する課題

- 川を通して人と人の繋がりを広げるため、本部会がプラットフォームとして機能することを目指し、他部会・流域内外の外部団体との連携を深める。
⇒第72回山部会・川部会合同WGでカーボンクレジットの共有を図った。
- ダム・水力発電等のエクスカージョンから流域圏の課題を知っていただく。
- 整理した矢作川流域圏の特色を市民に知っていただく機会を設ける。

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -3 川部会

水田貯留事業について (テーマ②流域圏に関する課題)

○安城市の水田貯留事業

第66回川部会（令和7年1月31日）では、安城市から流域治水対策として実施している水田貯留事業の紹介をして頂き、意見交換を行いました。

- 事業の推進に当たっては、水田の所有者と耕作者の理解・協力が重要であると説明を受けました。
- 令和6年度には学校給食に水田貯留のお米を提供し、水田貯留事業のPRを行いました。生徒からは「田んぼってすごい」「いつもよりおいしく感じる」等の意見がありました。



生徒たちに配布したチラシ



水路流量調整方式による水田貯留の様子（左：平常時、右：大雨時）

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -3 川部会

矢作川流域圏懇談会及び川部会の現状と課題 (テーマ②流域圏に関する課題)

○流域圏における課題共有

第67回川部会（令和7年6月19日）では、新たに川部会座長に就任した中村先生による初めてのWGが開催されました。

中村先生を新座長に迎えて、矢作川流域圏及び川部会の現状と課題について改めて議論を行いました。

【当日挙がった意見内容を一部紹介】

- ・15年前に策定された整備計画と現代社会に少し乖離がでてい中で、計画の範囲を超えた課題も共有を図る必要がある。
- ・矢作川の理想的な未来像を描くために、まずは過去の状況を整理することが重要である。
- ・矢作川本川の生物多様性は減少しているため、本川の生態系回復と親水性向上を検討すべきである。



中村先生 挨拶



会議の様子

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -3 川部会

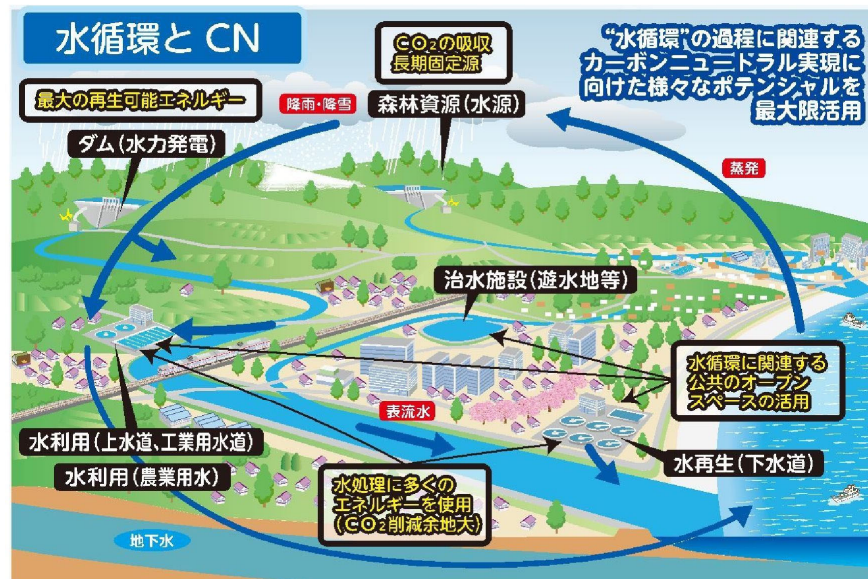
矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクトについて (テーマ③交流・共有に関する課題)

○施策の紹介

第72回山部会・川部会合同WG（令和7年6月27日）では、愛知県河川課から矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクトについて説明頂き、意見交換を行いました。

【愛知県河川課から情報共有いただいた内容を一部紹介】

- ・再生可能エネルギーの創出、エネルギーの省力化、CO2吸収量の維持・拡大等の視点より、**流域の持つポテンシャルを活用することが重要だ。**
- ・**矢作川・豊川CN推進協議会を設立し、各取組みを関係者一体で取り組んでいる。**



ダム管理のカーボンニュートラル化
小水力発電

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -3 川部会

第17回 “いい川” “いい川づくり” ワークショップ in ひょうご神戸 (テーマ③交流・共有に関する課題)

○活動内容の発表

2025年10月25日(土)・26日(日)に開催された「第17回 “いい川” “いい川づくり” ワークショップ in ひょうご神戸」に参加しました。各団体からの活動内容の発表・公開討論会の選考を経て様々な方と交流することができました。

矢作川流域圏懇談会の発表では近藤氏を中心に発表していただき、懇談会のような場が全国で必要になってくることを発信しました。惜しくも入賞こそ逃しましたが、多くの方の共感を得ることができました。また、近藤氏は「広松伝賞」を受賞する結果となりました。

【広松伝賞の審査基準】

- ・市民・住民の視点や立場で川や水辺の保全、回復に貢献するなど、市民のために働いた人
- ・笑顔の素晴らしい人
- ・多くの方が認める“いい男”、“いい女”、“いいグループ”



発表の様子



会場の様子

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -3 川部会

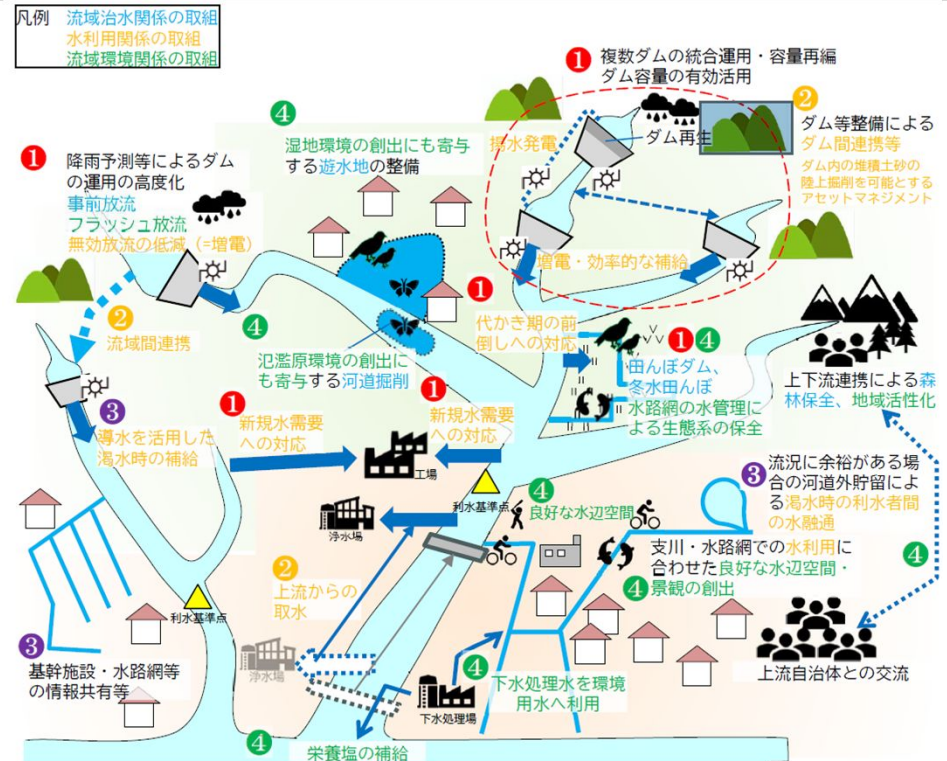
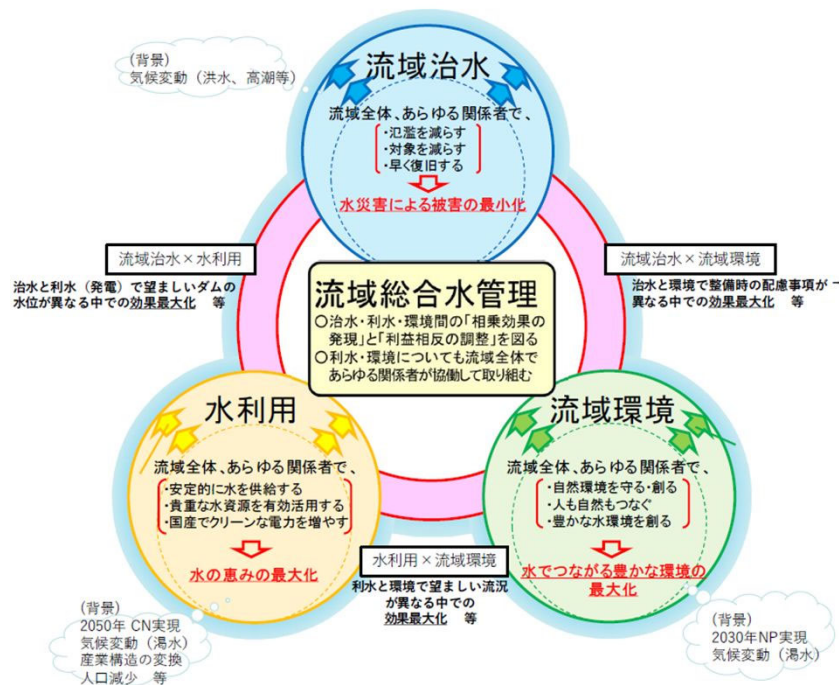
流域総合水管理について (②流域圏に関する課題)

○流域総合水管理の発足

第17回川部会まとめの会（令和7年10月29日）では、中村先生より、流域総合水管理について情報共有して頂きました。

【流域総合水管理の内容を一部紹介】

- ・流域治水・水利用・流域環境の取り組みの効果を最大化するためにはトレードオフや相乗効果を共有・調整する必要がある。
- ・調整の場で、ニーズの共有や対応策の意見交換・情報共有を行う。



4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -3 川部会

【第15期の活動】

第15期の川部会の活動を下記に示す。

	活動	日時	場所・内容
第15期	第66回WG	令和7年1月31日（金）	場所：豊田市 崇化館交流館 第1研修室 内容：水田貯留事業の紹介 第15期の活動方針について
	第67回WG	令和7年6月19日（木）	場所：豊田市 崇化館交流館 内容：座長の挨拶 第14期の振り返りと第15期の活動目標
	いい川・いい川づくり ワークショップ ^o	令和7年10月25～26日 （土～日）	場所：KIITO（キイト：デザインクリエイティブセンター 神戸） 内容：ワークショップ
	第17回川部会 まとめの会	令和7年10月29日(水)	場所：豊田市 崇化館交流館 内容：第15期の振り返りと第16期の活動目標 ：流域総合水管理の紹介

：イベントへの参加

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -4 海部会

【第15期（R6.12.1～R7.11.30）の活動目標】

<テーマ>

<目標>

⇒：今期の実績

豊かな海の再生
に向けた取り組み

- 海の**栄養塩不足**に関する対策（干潟・浅場造成や矢作川浄化センターでの試験運用など）の情報共有および意見交換を行う。
- 引き続き、アサリやノリをはじめとする**三河湾の生物資源回復**に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。
⇒「愛知県農業水産局水産課」から情報共有いただき、意見交換を実施
- 外部団体（伊勢湾再生海域検討会、伊勢湾総合対策協議会・海洋ごみ対策検討会等）と交流・情報共有する。⇒三河湾大感謝祭などで交流・情報共有

海と人との絆再生

- 海の生態系と流域との関係性の理解を深め、**上下流連携を推進**していく。
- 三河湾大感謝祭などの**地域イベントを通じて**海と人との絆の重要性を啓発する。
⇒三河湾大感謝祭に参加し、動画の公開やステージイベントなどを実施
- 流域市民に海の現状や課題を知っていただくことを目的に市民部会と連携しエクスカーション等の流域市民の方が参加しやすいイベントを開催する。
⇒既存のイベントに参加し、情報発信

ごみの問題

- 三河湾だけではなくより広い範囲で**ごみ問題に関わる活動との連携**を継続していくとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う。
⇒「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」などとの連携を継続し情報交換を実施

土砂の問題

- 河川の**治水事業や干潟・浅場造成事業**の途中経過の状況を把握するとともに他部会との情報共有および意見交換を行う。⇒市民部会・海部会合同WGを実施
- 出水に伴う**土砂流出**に関する意見交換・情報共有する

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -4 海部会

豊かな海の再生に向けた取組について (テーマ①豊かな海の再生に向けた取り組み・テーマ③土砂の問題)

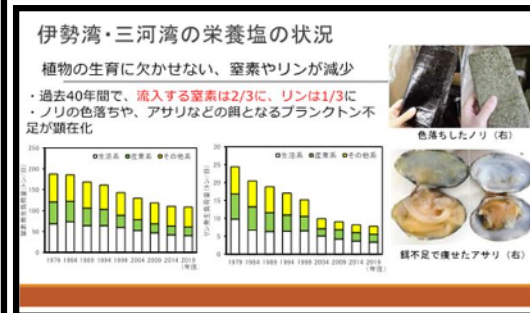
市民部会・海部会合同WGにて、愛知県農業水産局水産課から情報共有いただき、市民部会と海の栄養塩不足や干潟・浅場造成事業、合同イベントなどについて意見交換を行いました。

【愛知県農業水産局水産課から情報共有いただいた内容を一部紹介】

- ・現在の伊勢湾・三河湾は栄養塩が不足していることに起因して、海苔の色落ちや、アサリ等の餌となるプランクトン不足が顕在化している。
- ・改善するために「社会実験」として2箇所の浄化センターで放流水中の窒素とリンの濃度を増加させる取組をしている。結果、海苔の色落ちは軽減されたが、アサリについては、個体数は増加したが肥満度は低下した。これは栄養塩が不十分であることが理由であると考えられる。
- ・「社会実験」の結果を踏まえて「栄養塩増加運転の継続 (2027年度まで)」、「栄養塩増加運転を恒常的に実施するための枠組み検討 (類型見直しや総量規制基準の緩和の検討)」、「栄養塩を漁業生産につなげるための取組 (水産生物の産卵や育成の場となる干潟・浅場造成を推進)」が必要。

【当日挙げた意見内容を一部紹介】

- ・海水浴、潮干狩りや海産物を食べる等の海とのふれあいから海と市民が親しめるようにすることが重要である。「きれいな海」、「豊かな海」、「親しめる海」の3つを両立していきたい。
- ・矢作川流域圏には山・平地があり、降った雨が浸透して湧水があるということも重要である。現在は湾等に入った窒素、リン、ケイ素等が表流水か湧水由来か分かってきている。



出典：愛知県農業水産局水産課
提供資料



市民部会・海部会合同
WG(R7.2.13)の様子

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -4 海部会

伊勢・三河湾の現状 (テーマ①豊かな海の再生に向けた取り組み・テーマ③土砂の問題)

第56回海部会WGにて、伊勢湾・三河湾の現状について情報共有・意見交換を行いました。

【当日挙げた意見内容を一部紹介】

- ・水産資源の衰退には温暖化や黒潮の蛇行など様々な原因はあるが、ベースにあるのは2010年以降の栄養塩不足が一番大きな原因ではないかと考える。
- ・下水道は必要なインフラであるが、栄養塩不足を助長させる要因となる。下水道整備は、広域な流域下水道よりも、従前からの中山間地での市町単位の下水処理、個別家庭での浄化槽等の排水処理などが大事ではないかと考える。
- ・「きれいな海」が「豊かな海」の二者択一ではなく、「きれいで豊かな海」はあると考える。緊急性の面からでは、まずは栄養塩不足の問題となるが、干潟や浅場の問題は決して消えたわけではない。矢作川の中で砂の循環を戻すことも忘れないようにする必要がある。

流域市民への発信について (テーマ②海と人との絆再生)

第56回海部会WGにて、流域市民への発信について情報共有・意見交換を行いました。

【当日挙げた意見内容を一部紹介】

- ・WGで意見交換している内容から子ども向け資料や動画を作成し、学校でのイベントなどで説明することも一つの案である。
- ・子ども達は学校で環境問題を学んでいるが、自身との関係への認識が薄いのが現状である。現場や海苔を活用して環境問題と自身との関係をつなげるのがよいと考える。
- ・部会のメンバーが、ネットワークを広げて、部会で話題となった課題をPRし、それを少しでも具体的な形に転換できるかが重要である。



第56回海部会WG(R7.6.12)
の様子

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -4 海部会

動画作成 (テーマ②海と人との絆再生)

○三河湾の栄養塩不足に関する動画

三河湾の現状を多くの流域市民の方に知っていただくため、海苔・アサリの生産者の方へのインタビューや青木氏、鈴木氏の解説をまとめた動画を作成しました。作成した動画は、三河湾大感謝祭などで公開しました。



インタビュー状況



三河湾大感謝祭での公開状況

動画の概要

①海苔・アサリの生産者の方へのインタビュー



②三河湾の漁業の現状(鈴木氏)

愛知県栄養塩管理検討会議※の結果

色	類型	環境基準値	
		全窒素	全リン
IV型	IV型	1 mg/L以下	0.09mg/L以下
III型	III型	0.6 mg/L以下	0.05mg/L以下
II型	II型	0.3 mg/L以下	0.03mg/L以下

漁業生産に必要な全窒素濃度は0.4mg/l、全リン濃度は0.04mg/lはIII型で、II型からの変更が必要

※愛知県では、愛知県栄養塩管理検討会議を2022年9月に設置し、2022年度から2年間実施された「水質保全と『豊かな海』の両立に向けた社会実験」の結果を検証するとともに、漁業生産に必要な栄養塩管理のあり方について検討

③海の環境と流域圏(青木氏)



4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -4 海部会

地域連携イベントの参加 (テーマ②海と人との絆再生)

○第12回三河湾大感謝祭

第12回三河湾大感謝祭では、活動紹介や三河湾の現状に関する動画の公開、流域マップへのアンケートなどを実施しました。ステージイベントでは、座長 青木先生、事務局 山路副所長に懇談会の説明や三河湾の現状などについてご説明いただき、流域市民への啓発を行いました。



内容説明の様子



ステージイベントでの紹介の様子

4. 各部会の第15期の活動目標と実績 (1) -4 海部会

【今期の活動】

第15期の海部会の活動を下記に示す。

	活動	日時	場所・内容
第15期	市民部会・海部会合同WG	令和7年2月13日（木）	場所：西尾市 中央ふれあいセンター 視聴覚室 内容：第15期の活動目標について 第5回公開講座の振り返りについて 豊かな海の回復に向けた取組について 市民部会・海部会の合同イベントについて
	第56回WG	令和7年6月12日（木）	場所：西尾市役所 内容：矢作川流域付近で開催されているイベントへの参加について 三河湾の現状について
	第12回三河湾大感謝祭	令和7年10月5日（日）	場所：吉良ワイキキビーチ（宮崎海水浴場） 内容：矢作川流域圏懇談会の活動紹介、動画の公開、ステージイベント
	第17回海部会まとめの会	令和7年10月23日（木）	場所：西尾市中央ふれあいセンター 内容：今期の活動成果のまとめと今後の活動目標について意見交換

 : イベントへの参加

5. 第16期の全体会議の活動目標 (5) -1 市民部会

【第16期の活動目標】

「流域連携」をテーマに以下の3つの活動目標を設定する。

<テーマ>

<活動目標>

流域への情報発信

—食と農業—

- 食と農業に関する情報共有や活動を目的としたチームを作成し、その内容をWGで情報共有・意見交換する。
- 公開講座として流域市民の方への発信も検討する。

地域部会と連携

- 地域部会と連携して流域の課題を流域市民の方に知っていただく機会を設ける。
- 矢作川流域圏懇談会の活動や矢作川流域の課題を流域市民の方に発信していくために地域部会と連携して「農業」、「海の現状・課題」**農業、海、森林、里山等の現状・課題**をテーマとしたイベントを開催する。

新たなつながり

- 矢作川流域圏懇談会のネットワークを活用して流域内外で新たなつながりを広げる。
- 流域圏懇談会の活動と関連する団体・個人への訪問・招待やイベント参加などを引き続き行っていく。（矢作川感謝祭・三河湾大感謝祭等）
- 流域内の外部団体と連携を強化していき、流域のことを知っていただく場を設けて大学や市民の方も巻き込んでいく。

緑字：昨期より追記した内容

—：昨期より削除した内容

5. 第16期の全体会議の活動目標 (5) -2 山部会

【第16期の活動目標】

次の10年を見据えながら、山部会の展開を模索するとともに、4つの活動テーマを軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。

①流域圏担い手
づくり事例集

②山村
ミーティング

③森づくり
ガイドライン

④木づかい
ガイドライン

<テーマ>

<活動目標>

①流域圏担い手
づくり事例集

- 持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集VI」を刊行する。
- 山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目した取材や、これまで流域圏に含まれながら取り上げてこなかった団体への取材の可能性を検討する。
- 川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
- 事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。
- 事例集交流会を開催する。

5. 第16期の全体会議の活動目標 (5) -2 山部会

【第16期の活動目標】

緑字：昨期より追記した内容

＜活動目標＞ -：昨期より削除した内容

＜テーマ＞

②山村ミーティング

- ~~山村ミーティングの実現のためには、現場林業技術者に直接意見を伺うなど、林業関係者との連携を強化する（担い手の創出）。~~
 - 「森の人をつなぐ」の続編として多様な取組の紹介（地元メディアとの連携等）
 - 「林業現場」や「製材から流通」に関連する先進事例を紹介
 - 流域内フェアトレードでの山元（自伐的林業者や林業事業体）の課題整理
 - 木づかいと連携して交流学習会を開催
- ~~矢作川感謝祭始め多様な活動と連携して、流域の林業関係者の交流の場づくりにつなげていく。⇒今後の方針をWGにて議論~~

③森づくり ガイドライン

- 森林経営管理法、森林環境譲与税、脱炭素社会の実現、ネイチャーポジティブ、人工林齢級分布平準化、スギ花粉症対策、「流域総合水管理のあり方について」答申などの国の新たな動きや流域圏のほぼ全域でみられるようになったシカの食害を踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
- 水環境基本法および水循環基本計画に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。
- 流域市村の間伐面積・皆伐面積の経年変化を整理し、要因等の情報共有を行っていく。

5. 第16期の全体会議の活動目標 (5) -2 山部会

【第16期の活動目標】

<テーマ>

④木づかい
ガイドライン

<活動目標>

- ~~新たな取り組みとして「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（都市の木造化推進法）」に基づいて矢作川流域の各自治体で設定された「建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」を比較する。~~
- ~~特に、どここの木材の利用を推進しているかに着目する。（市産材、県産材、国産材等）~~
- 懇談会が中心となって流域産材を活用するためのプラットフォームを作る
- 各自治体の担当者に「流域産材」をアピールする場として木づかいミーティングの企画を検討する。
- ~~木づかいミーティングを開催し、作成した資料を用いて「流域産材」の活用を促進する。~~
 - ▶ 各自治体や事業者との連携を強化するため、担当者を把握する
 - ~~各自治体の木材利用の担当者を整理し、官民の関係を構築する。~~
 - ▶ 各製材所の製材・加工材の状況や得意分野を調査する
 - ▶ 木材を利用する事業者が使いたい流域産材を調査する
 - ▶ 豊田市や岡崎市の流域産材の活用事例の紹介
 - 「流域産材」を各自治体に広めていくためにアピールする資料を作成する。
- 木材利用の好事例の紹介
 - ▶ 「あいち木材利用施設事例集」に掲載されている事例を設計者に説明してもらい、FW先とし施設見学等も検討する

緑字：昨期より追記した内容

－：昨期より削除した内容

5. 第16期の全体会議の活動目標 (5) -3 川部会

【第16期の活動目標】

山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する。また、これまでの活動や資源を踏まえつつ、流域総合水管理を展開していくための活動を推進する。

<テーマ>

<活動目標> 緑字：昨期より追記した内容
－：昨期より削除した内容

河道に関する課題
(本川・支川)

- 上流から海までを繋ぐ役割として、上下流共通の課題である土砂問題や生き物の棲みやすい川づくりについて、情報共有および意見交換を行う。
- 矢作川が目指すべきイメージを整理し共有する。(例：過去の矢作川の写真を収集し、広く発信する)

流域圏に
関する課題

- 川まちづくりに関与する行政や関係機関から矢作川流域圏内で取り組んでいるプロジェクトについて、情報共有する。
- 流域圏の課題を防災面・社会面から整理し、行政や市民団体などが参画・協力できる場を創出する。
- 矢作川流域圏の特色（現状の課題や資源・資産）を整理する。

交流・共有に
関する課題

- 川を通して人と人の繋がりを広げるため、本部会がプラットフォームとして機能することを目指し、上下流域圏、他部会、流域内外の外部団体との連携を深める。
- 流域圏内の市民イベントや市民団体の活動を把握・情報共有する。
- ダム・水力発電等のエクスカージョンから流域圏の課題を知っていただく。
- 整理した矢作川流域圏の特色を市民に知っていただく機会を設ける。

5. 第16期の全体会議の活動目標 (5) -4 海部会

【第16期の活動目標】

「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。

＜テーマ＞

＜目標＞ 緑字：昨期より追記した内容

豊かな海の再生に
に向けた取り組み

- 海の栄養塩不足に関する対策（干潟・浅場造成や矢作川浄化センターでの試験運用など）の情報共有および意見交換を行う。
- 引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。
- 外部団体（伊勢湾再生海域検討会、伊勢湾総合対策協議会・海洋ごみ対策検討会等）と交流・情報共有する。

海と人との絆再生

- 海の生態系と流域との関係性の理解を深め、上下流連携を推進していく。
- 三河湾大感謝祭などの地域イベントへの参加や海の生物に関心のある方が多い水族館や博物館との連携を通じて海と人との絆の重要性を啓発する。
- 地域の課題等を情報交換することを目的にフィールドワーク（海の博物館の見学、アマモ等の植生体験、アサリの潮干狩り、魚釣り体験等）を実施する。
- 海の現状や問題に関する動画をインターネット上で共有し、広く周知する。

ごみの問題


- 三河湾だけではなくより広い範囲でごみ問題に関わる活動との連携を継続していくとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う。

土砂の問題

- 河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の途中経過の状況を把握するとともに他部会との情報共有および意見交換を行う。
- 出水に伴う土砂流出に関する意見交換・情報共有する。



6. その他



7. 全体会議座長 講評

8. 閉会

調和のとれた矢作川流域圏の実現に向けて



国土交通省 豊橋河川事務所

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism